

一 和銅五年十月乙丑条について

①史料の概要と問題の所在【史料Ⅰ】

A 諸国の郡稲をさいて利便所に別置して交易によって役夫に米をわたす

B 貨幣流通政策との関係【史料Ⅱ・Ⅲ】

C 調庸運脚夫および各種役夫への給糧【史料Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ】

→史料ⅠはA Bーともに概説のなかで簡単に触れられる程度

②和銅五年十月乙丑制の対象役夫

A 前段：和銅五年の調庸運脚夫を中心にした還郷役夫【史料ⅩⅠ・ⅩⅡ】

B 後段：和銅五年末以降の各種役夫の往還

③郡稲と錢の支給・回収の概念図と負担の在り方

A 負担の在り方の質的問題【図1、表1】

B 負担の量的問題【表1】

④和銅五年十月乙丑制の効果および影響

A 貨幣流通政策して

→遠国は無縁、額も近国以外は少額

B 運脚夫への支給の国家の最終的在り方【史料Ⅹ】

C 地方行財政

→穎稲額は多大ではない【史料ⅩⅤ】。

→近国になるほど他国役夫の為の手間大【史料ⅩⅠ】

D 延喜式制

⑤行基の布施屋

A 神亀3年の山崎橋の役民の労苦

B 東山・北陸・山陰・山陽・南海道の役民との関係

①大江布施屋 山背国乙訓郡大江里

②泉寺布施屋 山背国相楽郡高麗里

③岷陽布施屋 摂津国河邊郡岷陽里

④垂水布施屋 摂津国豊嶋郡垂水里

⑤度布施屋 摂津国西城津守里

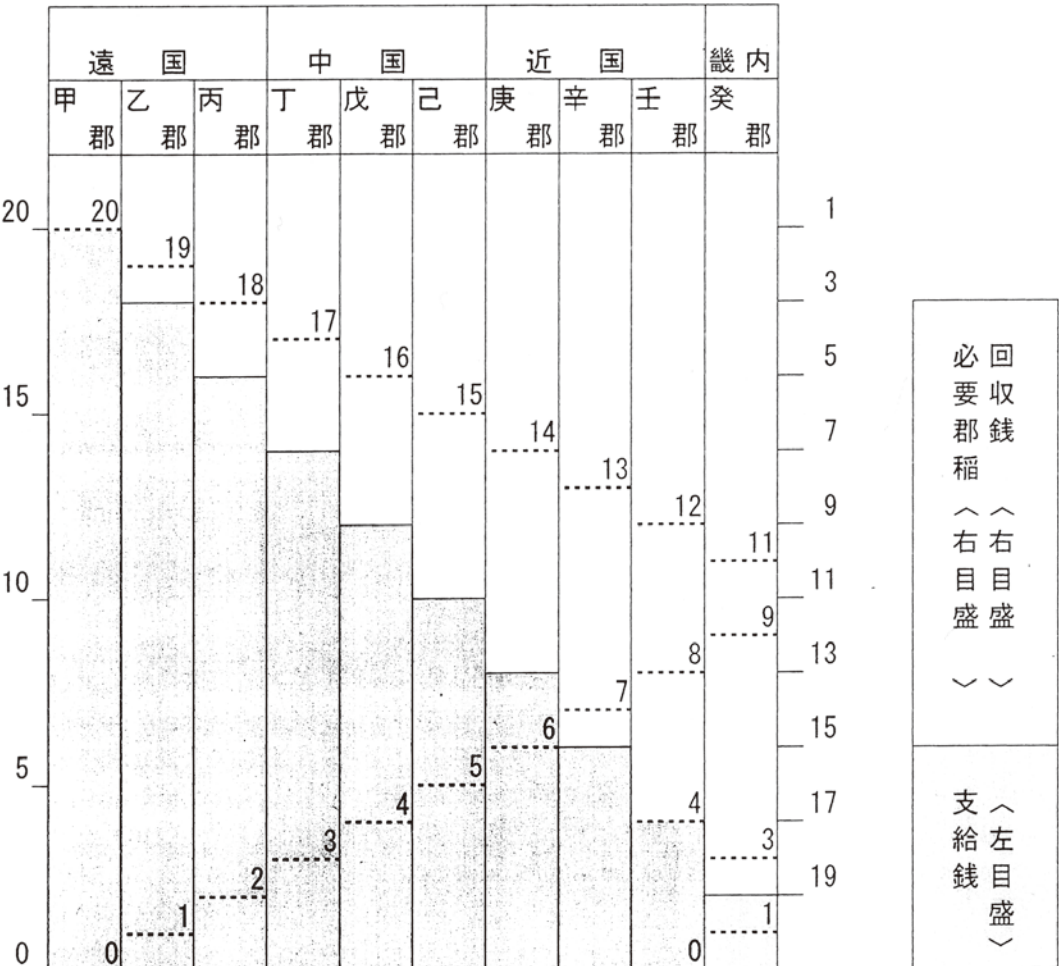
⑥楠葉布施屋 河内国交野郡楠葉里

⑦石原布施屋 河内国丹北郡在（石カ）原里

⑧大鳥布施屋 和泉国大鳥郡大鳥里

⑨野中布施屋 和泉国大鳥郡土師里

図Ⅰ 和銅五年十月制における調庸運脚夫への郡稲支給

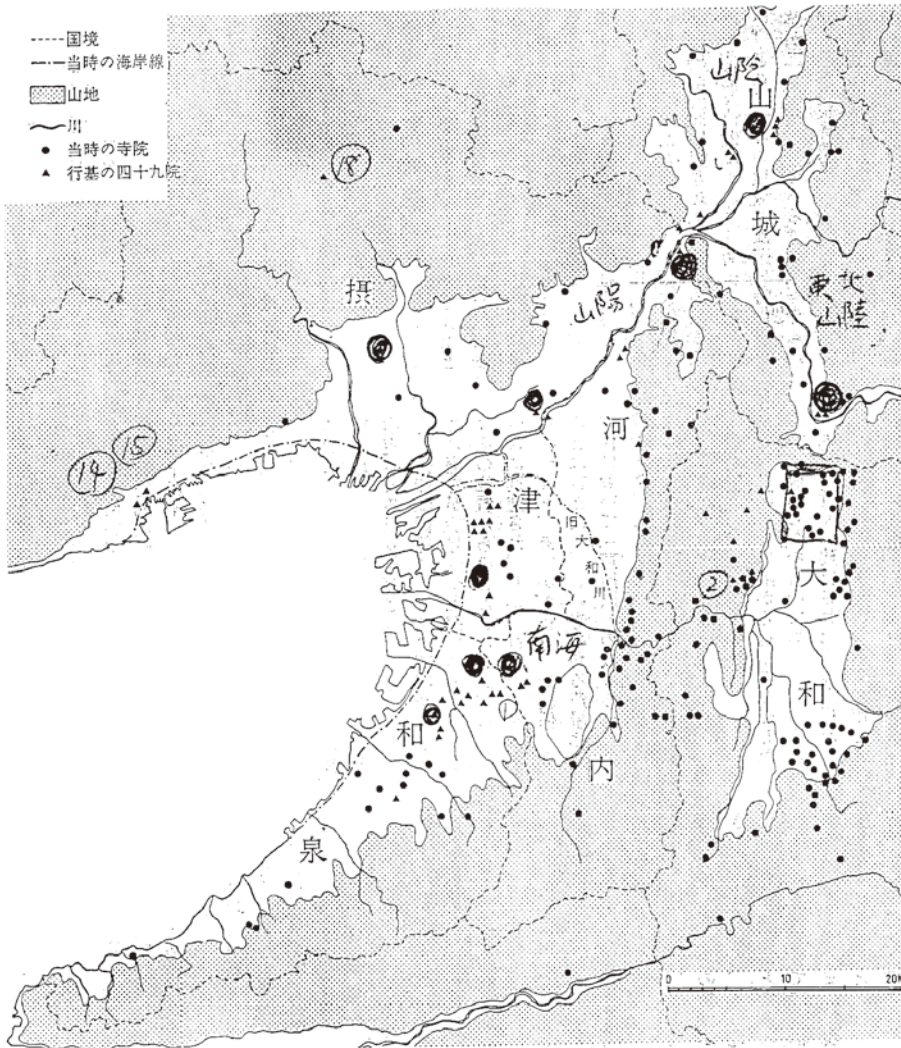


20・4 最遠国・近国 往路保持錢貨 1 最遠国・近国 還路保有錢貨
19 0

* 京滞在中に錢1単位を支出する

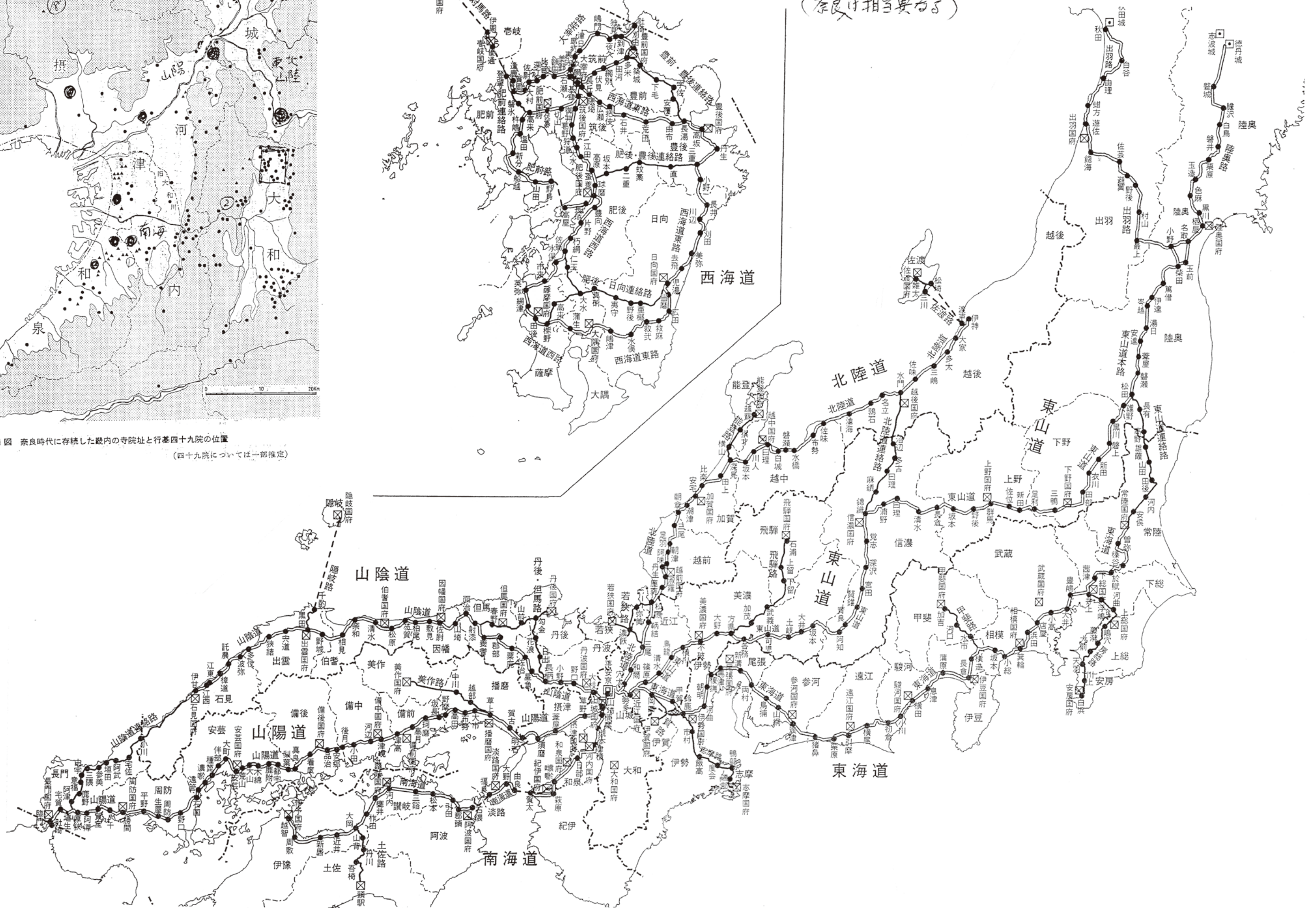
表6 天平諸国正税帳の委積穀高と当年租穀

天平年度	国名	首・郡	委積高		当年租穀
2	大和	平群	5387		297
2	大和	十市	1694		147
2	大和	城下	7922		459
2	大和	山辺	8855		449
2	大和	添上	8820		839
2	伊賀	首			2529
2	尾張	首	213324		
2	尾張	山田	28264		863
6	尾張	中島	39087		1599
10	駿河	首	322696	定	10160
2	越前	丹生	55106		1832
2	越前	江沼	29694		966
2	越前	加賀	38080		2403
4	隠岐	首	25625		760
4	隠岐	智夫	4957		186
4	隠岐	海部	7365		286
4	隠岐	周吉	9190		158
4	隠岐	役道	4112		129
6	周防	吉敷	43775		1309
10	周防	首	176542		4058
2	紀伊	首	45287		3373
2	紀伊	伊都	5340		540
2	紀伊	不詳	6205		746



第1図 奈良時代に存続した畿内の寺院址と行基四十九院の位置
(四十九院については一部推定)

七道駅路図 (平安時代) (奈良時代相当異名)



表Ⅰ 東海道諸国国別必要運脚夫数および銭貨

国名	郡数	郷数	遠近国	上行程	下行程	課丁数	調品目(自余)	庸品目(自余)	運脚夫(調)	運脚夫(庸)	運脚夫(計)	支給銭貨(文)
伊賀	4	18	近国	2	1	3600	糸・布	米	111	1800	1911	0
伊勢	13	84	近国	4	2	16800	絹・塩	米・塩	4375	8400	12775	4258
志麻	2	10	近国	6	3	2000	海産物	海産物	133	67	200	133
尾張	8	62	近国	7	4	12400	絹・糸・塩	米・塩	2235	6200	8435	5624
三河	8	68	近国	11	6	13600	絹	米・塩	453	6800	7253	9671
遠江	13	89	中国	15	8	17800	絹(一部は布)	糸	593	178	771	1543
駿河	7	49	中国	18	9	9800	絶	布	204	204	408	1089
伊豆	3	21	中国	22	11	4200	絶・鯉	布	184	88	271	814
甲斐	4	27	中国	25	13	5400	絶	布	113	113	225	975
相模	8	60	遠国	25	13	12000	絶・布	綿・布	375	225	600	2200
武蔵	21	101	遠国	29	15	20200	絶・布	布	631	421	1052	4559
安房	4	29	遠国	34	17	5800	布・鯨	布	218	121	338	1692
上総	11	64	遠国	30	15	12800	布・鯨	布	480	267	747	3733
下総	11	86	遠国	30	15	17200	布	布	717	358	1075	5375
常陸	11	149	遠国	30	15	29800	絶・暴布	布	931	621	1552	7760

※郡数・郷数は『倭名類聚抄』を、行程・調庸の品目は『延喜式』を参照した。

※課丁数は鬼頭清明説により郷数×200人と仮定した。

※調庸とも2品目が指定されている場合は半分づつ輸すものと仮定した。

表Ⅲ 国別供出米量と回収銭貨数

国名	通過日数	通過人数	米量(升)	稻換算(束)	回収銭貨(文)
伊賀	1	35704	35704	7141	11901
伊勢	1	22929	22929	4586	7643
志麻	0	0	0	0	0
尾張	2	14293	28587	5717	9529
三河	2	7040	14080	2816	4693
遠江	1	6269	6269	1254	2090
駿河	2	5860	11721	2344	3907
伊豆	2	5589	11178	2236	3726
甲斐	0	0	0	0	0
相模	2	4764	9528	1906	3176
武蔵	2	3712	7424	1485	2475
安房	0	0	0	0	0
上総	1	338	338	68	113
下総	1	2637	2637	527	879
常陸	0	0	0	0	0

表Ⅳ 運脚夫一人あたりの品目別輸量

品目	調	庸
米		2課丁分
塩		2課丁分
糸	50課丁分	100課丁分
布	24課丁分	48課丁分
絹	48課丁分	
絶	48課丁分	
綿	30課丁分	60課丁分
鯨	30課丁分	
鯉	15課丁分	

運脚夫一人あたり30kg程度運ぶと推定

表Ⅴ 天平諸国正税帳と郡稲の額

天平	国名	首・郡	正税額高(束)	正税出挙(束)
2	大和	平群	4230	600
2	大和	十市	1790	1140
2	大和	城下	5536	2657
2	大和	山辺	2144	1424
2	大和	添上	4158	2535
8	摂津	某	4236	
8	摂津	西成	9832	
9	和泉		69506	30000
		大鳥	24562*	
		和泉	20267*	
		日根	13933 (11756*)	8000
2	伊賀	首	33916	
2	尾張	首	475416	
2	尾張	山田	39059	6684
6	尾張	首	[2494316]	[85482]
6	尾張	中島	[374243]	[]
6	尾張	葉栗	34084	2877
9	駿河	益頭	66032	27900
9	駿河	某	124754	37400
10	駿河	益頭	58588	
11	伊豆			
	越前	首	716193	
	越前	敦賀	15303	
2	越前	丹生	71268	27662
2	越前	足羽	31883	13534
2	越前	坂井	87180	13280
2	越前	江沼	84049	31670
2	越前	加賀	248069	63370
4	佐渡		63847	15776
4	隠岐	首	9844	2112
4	隠岐	智夫	1650	282
4	隠岐	海部	2834	610
4	隠岐	周吉	3100	742
4	隠岐	役道	2260	478
6	周防	吉敷		
10	周防	首		
2	紀伊	首	78148	16180
2	紀伊	伊都		
2	紀伊	不詳		

郡稲				
	国名	首・郡		
4	越前	首	93968	
4	越前	敦賀	3086	1036
4	越前	丹生	1294	1294
4	越前	足羽	15590	7360
4	越前	江沼	7296	6246
4	越前	加賀	37080	12101
2	隠岐	周吉	6014	1530

表Ⅱ

推定課丁数 澤田・延喜	推定課丁数 郷数×200	推定課丁数 澤田・延喜
近江	15800	26540
美濃	24400	19340
飛騨	2400	2330
信濃	15400	19670
上野	21000	19490
武蔵	20200	24480
下野	12400	19210
磐城	0	
陸奥	29800	34790
出羽	11800	19200
	0	
若狭	2600	5300
越前	10400	22600
加賀	5600	15080
能登	4200	8480
越中	8200	18470
越後	6600	18320
佐渡	3400	3770
	0	
丹波	13000	14600
丹後	6200	9490
但馬	11600	16270
因幡	8800	15630
伯耆	9600	14400
出雲	15600	15280
石見	7000	8590
隠岐	2400	1540
	0	
播磨	17800	27430
美作	12400	16790
備前	9800	21030
備中	13800	16330
備後	12800	13740
安芸	12000	13450
周防	7200	12310
長門	5400	7930
	0	
紀伊	8400	10350
淡路	2800	2790
阿波	8800	11130
讃岐	17000	19440
伊予	12800	17800
土佐	8200	11620

表Ⅵ

△Ⅰ 統紀 和銅五年十月乙丑条 (712年)

乙丑、詔曰、諸国役夫及運脚者、還郷之日、
粮食乏少、无由得達。宜割郡稻別貯、便地、隨役
夫到、任令交易。又令行旅人必賣錢為資、因息重担
之勞、亦知用錢之便。

役夫のために
郡稻の一部を
別置に交易せよ

△Ⅱ 統紀 和銅四年五月己未条 (711年)

己未、以穀六升当錢一文、令百姓交關、各得其利。
先是、禁取畿外人充帳内、資人。至是始許之。

穀6斗=1文で
交換せよ

△Ⅲ 統紀 和銅五年十二月辛丑条 (712年)

十二月辛丑、制、又諸国所送調
庸等物、以錢換、宜以錢五文准布一常。

調庸物を
布一常5文
で換算せよ

△Ⅳ 統紀 和銅五年正月乙酉条 (712年)

五年春正月乙酉、詔曰、諸国役民、還郷之日、食粮絶
乏、多饑道路、轉填溝壑、其類不少。国司等宜勤加
撫養、量賑恤。如有死者、且加埋葬、錄其姓名、報
本属也。

役民が多饑に
死ぬが、国司は
対策をせよ

△Ⅴ 統紀 和銅六年三月壬午条 (713年)

三月壬午、詔曰、任郡司少領以上者、性識清廉、雖
堪時務、而蓄錢乏少、不滿六貫、自今以後、不得
遷任。又詔、諸国之地、江山遐阻、負担之輩、久苦行
役。具備資粮、闕納貢之恒数、減損重負、恐饑路
之不少。宜各持一囊錢、作当炉給、永省勞費、往
還得便。宜国郡司等、募豪富家、置米路側、任其
売買。一年之内、売米一百斛以上者、以名奏聞。又
売買田、以錢為価。若以他物為価、田并其物、共
為没官。或有糾告者、則給告人、売及買人、並科違
勒罪。郡司不檢校、違十事以上、即解其任。九事
以下、量降考第。国司者式部監察、計違附考。或雖
非用钱、而情願通商者聽之。

役夫は食を持参すれば税分が減る。
錢を持たして、富豪と米を交換せよ

△Ⅵ 統紀 養老四年三月己未条 (720年)

己未、太政官奏(中略)又檢養老二年六月四日
案内云、庸調運脚者、量路程遠近、運物輕重、
均出。戸内脚獎資行人勞費者。拠案、唯言運送庸
調脚直。自餘雜物送京、未有几分。但百姓運物入
京、事了即令早還。為無帰国程粮、在路極難艱
辛。望請、在京貯備官物、每因公事送物還、准程
給粮。庶免飢弊、早還本土。

△Ⅶ 統紀 神龜元年三月甲申条 (724年)

甲申、令七道諸国、依国大小、割取稅稻
四万已上廿万束已下、每年出舉、取其息利、以充朝集
使在京及非時差使、除運調庸外向京担夫等粮料。語
在格中。

調庸運脚夫以外
の担夫は正税の中
から食米を出せ

△Ⅷ 統紀 天平宝字元年十月庚戌条 (757年)

冬十月庚戌、勅曰、如聞、諸国庸調脚夫、事畢帰郷、
路遠粮絶。又行旅病人、無親恤養、欲免飢死、餓口
飯生。並辛苦途中、遂致横斃。朕念乎此、深增憫
矜。宜仰京国官司、量給粮食医薬、勤加檢校、令
達本郷。若有官人怠緩不行者、科違勒罪。○乙卯、

諸国の庸調脚夫が
帰郷の際飢死している
京国の官司、食と薬に勤めよ

△Ⅸ 統紀 天平宝字三年五月甲戌条

五月甲戌、勅曰、
(中略)
頃聞、至于三冬間、市辺多餓人。尋問其由、皆云、
諸国調脚不得還郷。或因病憂苦、或無粮飢寒。朕
窃念茲、情深矜愍。宜随国大小、割出公廩、以為
常平倉、逐時貴賤、糴糶取利、普救還脚飢苦。非直
霑外国民、兼
調京中穀価。其東海・東山・北陸三道、左平准署掌之。
山陰・山陽・南海・西海四道、右平准署掌之。

諸国調脚夫が市辺で飢えている。
食がなくて病で死んでいる。
常平倉を創り、米価を安定させ
飢苦に備えよ

△Ⅹ 延喜式 民部上 運脚条

凡調庸及中男作物送京、差正丁充運脚、餘出脚直以資脚夫、預具所須之
數、告知應出之人、依限檢領、准程量宜、設置路次、起上道日迄于納
官、給二人日米二升、鹽二勺、還日減半、剩者廻充來年所出物數、別簿申送、

運脚夫以外の
調庸を出資の
資を路次に
置く

△Ⅺ 賦役令 調庸物条

凡調庸物。毎年八月中旬起輸。近国十月卅日。中国十一月卅日。遠国十二月
卅日以前納訖。其調糸七月卅日以前輸訖。若調庸未送本國間。有身死者。
其物却還。其運脚均出庸調之家。皆国司領送。不得微勾隨便輸。
凡丁匠上役。及庸調脚度、調者。皆拠本國歷名。共所送使勘度。其役納畢還
者。勘三元來姓名年紀。同放還。

調庸の運脚夫は
庸調を出資が
均しく出せ

△Ⅻ 関市令 丁匠上役条

凡丁匠上役。及庸調脚度、調者。皆拠本國歷名。共所送使勘度。其役納畢還
者。勘三元來姓名年紀。同放還。

庸調脚夫の歴名
をもつて関を度せ
て、丁匠を度せ

△Ⅼ 宮内省 津橋道路条

凡津橋道路。每年起九月半。当界修理。十月使訖。其要路陥壞。停水。交
廢行旅者。不拘時月。量差人夫修理。非当司能弁者。申請。

道路が陥壞
9月10月で修理
を終えよ。
要路は時月に拘らず

△Ⅽ 相模国司 牒 (大目古 四 83)

○紙面ニ相模國印ナハアリ、
相模國司 牒造東大寺司
請調郊價錢事 在東市而送者
右、得寺去十月十五日牒解、件郊以寺地一町相替之狀、以今歲六月十日、
陳牒既訖、于今未報、空返日月、彼此有妨、若以地相替、為國不便者、翻價
欲買、願一定早報、勿致再三、者、國依牒官問郡司、百姓等申云、請地價錢
欲買便地者、仍錄事狀、付調雜掌丈部人上、以牒、
天平勝寶七歲十一月十三日、從七位下大目高市連種 啓
守從五位下藤原朝臣宿奈麻呂

相模の調郊が
東市近辺にある。

XV 天平諸国正税部稻帳

五 伊賀国正税帳 天平二年度

(A断簡) 正集十五 (第一紙)

芝納本陸仟伍伯叁拾貳束
利叁仟貳伯陸拾陸束
併本利玖仟柒伯玖拾捌束
遺貳萬肆仟壹伯壹拾捌束貳把捌分
合叁萬叁仟玖伯壹拾陸束貳把捌分
為穀壹萬貳仟伍伯肆拾叁束肆把捌分 得穀壹仟貳
伯伍拾肆斛叁斗肆外捌合 振入一百一十四斛三外一合六分三厘捌別一斗
芝壹仟壹伯肆拾捌斛叁斗壹外陸合叁分叁厘
遺類貳萬壹仟叁伯柒拾貳束捌把
當年輸租穀貳仟柒伯捌拾貳斛貳外柒合柒振 振入二百五十二斛
九斗一外一合五分五厘捌別一斗

七 尾張国正税帳 天平六年度

(繼目裏書) 尾張國収納大稅帳天平六年十二月史生後八位上丹比新家連石麻呂

(A断簡) 正集十五 (第八紙)

尾張國司解 申収納天平六年
合八郡天平五年芝穀貳拾伍萬捌仟肆伯肆拾斛壹斗捌外壹合
不動壹拾捌萬陸仟肆伯伍拾陸斛叁斗陸外玖合
動用柒萬壹仟玖伯捌拾叁斛捌斗壹外貳合
心稅穀貳拾肆萬玖仟肆伯叁拾壹斛陸斗陸外陸合
郡稻穀捌仟伍伯肆拾捌斛貳斗肆外伍合

伊豆正税帳 天平十一年度

(B断簡) 合芝實柒萬壹仟壹伯貳拾肆斛伍外
不動陸萬柒仟玖伯貳拾玖斛柒斗壹外
動用叁仟壹伯玖拾肆斛叁斗貳外

類稻陸拾柒萬叁仟柒伯貳束陸把
稻叁仟壹伯伍拾捌斛肆斗壹外
國儲貳仟柒伯捌拾肆斛柒斗玖外
兵備叁伯陸拾伍斛陸斗貳外

越前国正税帳 天平二年度

(繼目裏書)

越前國大稅帳天平三年二月廿六日史生大初位下阿刀造佐義麻呂

(F断簡) 正集十五 (第二十三紙)

類稻陸拾柒萬叁仟柒伯貳束
雜用壹萬肆仟肆伯肆拾伍束
春米新稻壹萬貳伯陸拾束

(A断簡) 正集二十七 (第一紙)

殘玖仟柒伯捌斛玖斗肆外
合芝大稅穀貳拾柒萬柒仟壹伯叁拾玖斛柒斗陸外柒合柒分
類稻柒拾壹萬陸仟壹伯玖拾叁束伍把

越前国郡稻帳 天平四年度

(繼目裏書)

越前國郡稻帳天平五年潤三月六日史生大初位下阿刀造佐義麻呂

(E断簡) 正集二十八 (第七紙)

芝納本叁萬肆仟壹伯陸拾束
利一萬七千八十束
合納伍萬壹仟貳伯肆拾束
遺肆萬貳仟伍伯玖拾捌束柒把玖分
不用馬壹匹直稻伍拾束
死馬皮捌張直稻捌拾束 振別一十束
都合芝稻玖萬叁仟玖伯陸拾捌束柒把玖分
雜用壹萬伍仟壹伯壹拾伍束伍把捌分
遺柒萬捌仟捌伯伍拾叁束貳把壹分

六 尾張国正税帳 天平二年度

(繼目裏書)

尾張國収納大稅帳天平二年十二月少目後七位下勲十二等秦前忌寸大奧

(A断簡) 正集十五 (第六紙)

都合芝穀貳拾壹萬叁仟叁伯貳拾肆斛捌斗一十六萬九千四百
養老六年按察使檢芝穀壹拾陸萬貳仟捌伯捌斛捌斗
緣振所入一萬六千二百九十八斛九斗八分
神龜元年以還穀伍萬伍伯壹拾陸斛 緣振所入五千二百
類稻陸拾柒萬伍仟肆伯壹拾陸束陸把捌分半
古稻貳仟壹伯柒拾陸斛叁斗肆外壹合
醬壹拾肆斛壹斗柒外伍合
末醬貳斗壹外

XVI 續日本紀和銅五年八月庚子条

子、太政官処分、諸国之郡稻乏少、給用之日、有致廩
闕。宜准国大小、割取大税、以充郡稻、相通出挙、
所息之利、隨即充用。事須取足勿令乏少。但割配
本数、不令減損。自今以後、永為恒例。

XVII 倉庫令 延文倉貯積条

凡(口)倉(口)貯積者。稻穀粟支九九年(口)(口)。雜種(口)支三年(口)。糠支廿年。
貯經三年以上。一斛聽耗一升(口)。五年以上(口)二升(口)。
(延暦交番式。延暦交番式所引室龜四年正月廿三日明法曹司解。白類聚三代格卷八不動用事、
大同三年八月三日太政官符。御令抄。天平十年和泉監正稅帳。

XVIII 延文交番式 22

太政官符、大稅者、自今已後、別定不動之倉、以為国貯之物、
国郡司等各稅文及倉案、注其人時定倉、校檢
和銅元年閏八月十日